

## 「本戦（11月16日）レポート」



### 【伊藤竜馬選手敗退】

本日は、シングルス中断試合の準々決勝、準決勝、ダブルス決勝の試合が行われた。

まず、伊藤竜馬選手が昨日の雨により中断試合となった準々決勝を戦った。ファイナルセット 4-5 相手サーブの 0-15 から始まった試合。最初のポイントから異様な張り詰めた雰囲気の中、両選手共に熱くファイトし、白熱したラリー戦となった。伊藤選手のプレーもいつものフォアで攻める展開が素晴らしかったが、相手のクラウン選手（USA）のレフティから繰り出されるキレのあるサービスとフォアハンドの強打が冴え、6-4.3-6.4-6 のスコアで惜しくも敗れた。

添田選手の準決勝の相手は中断試合を 2-6.6-3.7-6(8)で制してきたハーバート選手。

試合の序盤は添田選手のイージーミスが目立ち、1-3 とされてしまう。プレーが本調子ではなく、いつも冷静な添田選手にもメンタルが揺らぐ場面が見られた。しかし、次の相手サービスゲームで添田選手の集中力が格段に上がったと感じた。

相手の強烈なファーストサーブに対して必死に飛びつきながら返し、相手のミスを誘う。ラリーでは球の質を抑えて、相手の強打を返し続ける辛抱強いプレーを続けた。その結果、ブレイクバックに成功し、この一ゲームが添田選手に流れを呼び込むこととなった。

次のゲームからハーバート選手の焦りが見え始め、攻め急いだミスが増えだした。最後までこの流れは変わらず、ラリー戦になればミスの少ない添田選手がポイントを重ねていった。

迎えた最終ゲーム、添田選手のフォアハンドのエース、サービスポイントで3ポイントを連取し、相手を追い込み、最後はハーバート選手のフォアハンドがネットにかかり勝利を収めた。

(慶應チャレンジャー広報部門)

本日のベストマッチは準々決勝、コリッチとハーバートの中断試合。ファイナルセット4-4からスタートしてタイブレークイン。タイブレーク6-5でコリッチがリードし、コリッチが強気にネットに出て、ボレーをドロップで落とす。しかし、そのボールが甘く、ハーバートがパスエース。再び、8-7でコリッチのマッチポイント。ハーバートの打ったボールがアウトインぎりぎりのところに落ちる。主審はインのジャッジ。コリッチはアウトと必死の抗議。コリッチのコーチは『黙ってプレーしろ』の声。8-8でハーバートはすかさずネットへ出てボレーエース。最後はコリッチのミスで試合終了。ほんの少しの差が勝負を分けた。試合後、コリッチはロッカールームに走り去り、コリッチのコーチは『6-5のボレーが甘かった』と独り言を言いながら悔しがり、コリッチの父親はハーバートの父親に握手に向かう。白熱した試合の中にグッドルーザー。白熱した試合もさることながら、コリッチの父親のフェアプレー精神に心打たれる。この親子は将来きっと大きな結果を残すであろう。そう確信した。

本日の試合は、順延の試合をした2人(クラーン、ハーバート)が共に2試合目で敗れた。数ゲームとはいえ、1日1試合の選手と1日2試合の選手と明暗が分かれた。エブデンがクラーンを、添田がハーバートを下して、決勝進出を果たした。

ダブルスはクラーン・ビーナス組がラティワタナ兄弟を下して優勝。クラーンは今週で今年の試合がすべて終了し、明日米国帰国。ビーナスは中国で開催される全豪オープン本選ワイルドカード選手権に出場予定。決勝で敗れたラティワタナ兄弟は『以前よりもシングルス選手がダブルス出場するようになり、自分たちも厳しくなっているが、チャレンジを続けている。』と話すが、次週の豊田チャレンジャーに旅立っていった。

明日はエブデン対添田の決勝戦。世界トップ100の貫録を見せつけて勝ち上がってきた2人。添田は明日の決勝戦に勝つと世界ランク95位、負けると世界ランク105位。ほぼ

全豪オープン本選入りは確実だが、1月初頭のインド・チェンナイオープン本選入りがかかる。様々なショットを巧みに打ち分けるエブデンに対して、添田は正確なストロークに加えて要所でのフォアハンド及びネットプレーでの攻撃をからめたい。エブデンのバックハンドが甘くなる場所をどのようにつけるか。

優勝者は ATP ポイントが 80 点、準優勝者は ATP ポイントが 48 点と倍近く違う。これが優勝と準優勝の違い。明日は白熱した試合が見られそうだ。

明日は午前中にキッズクリニック（小学生対象）も開催予定。注目の対決に多くの観客が集まることは間違いなし。天候は晴れ予報。最終日にふさわしい好ゲームが期待できそうだ。

（トーナメントディレクター 坂井利彰）